

令和6年度 杉並区立桃井第五小学校 経営・評価計画【自己評価報告書】・「学校関係者評価報告書」						校長 佐野 篤			学校関係者評価委員会委員					
目標体系														
杉並区の教育ビジョン						「みんなのしあわせを創る 杉並の教育」 ◇学び合い、信頼をつくり、共に生きる ◇ちがいを認め合い、自分らしく生きる ◇誰もが社会の創り手として生きる								
学校の教育目標						『やさしく かしく たくましく』								
経営方針						○全ての子どもたちを全教職員で支援する ○学校をオープンにして多様な風を入れる ○変化を恐れずに試行錯誤し、協働する。								
大切にしている学校像						『やさしさとしあわせがあふれる桃五小』 ○自分が成功したり、成長したりする喜びを「しあわせ」と感じる人を育てるのはもちろんのこと、人を助けたり、役に立ったりする喜びを「しあわせ」と感じる人を育てる。 桃五小に「しあわせ」を引き寄せる5つの習慣 「○しせい ○あいさつ ○ありがとう ○わらい ○せいとん」								
大切にしている児童像						○「自立」 自分でよく考えて、自分らしく行動する。 ○「共生」 多様さを認めて、人を大切にすること。 ○「寛容」 自分の中に、「やさしさ」を育てる。								
大切にしている教師像						① 自らよく考え、子供自身の成長を大切にし、日常の授業の質の向上に努める教師。 ② ICT等の教育環境の変化を楽しむ、教員相互に学び合い、支え合い、高め合う教師。 ③ 保護者、地域の願いを共感的に聞き取り、積極的な情報発信を行い、密なる連携ができる教師。								
令和6年度 経営計画・評価計画						評価指標・評価基準								
区分	重点目標	目標実現のための方策				結果と成果			児童	保護者	教員	評価	学校関係者評価委員	
経営方針の浸透	「やさしさ」と「しあわせ」があふれる桃五小をスローガンに、子供が主体の教育活動を推進する。	○職員会議、保護者会、学校運営協議会等で、学校経営方針を丁寧に説明する。学校だよりや全校朝会で、積極的に発信していく。 ○子供の目標を大切にし、子供自身が意見を述べたり、発表したり、決めたりするような、子供が主体の学校行事や教育活動を推進する。 ○チーム担任制(教科担任制、交換授業、専科教員等の活用)に積極的に取り組み、生活指導上の問題等を学級担任が一人で抱えるのではなく、学年チームや学校全体で対応する。 ○子供と教員が、豊かに関わり、しあわせに学校生活を送れるように、新生活しめ程を運用する。 ○4月に校内に周年特別委員会を設け、組織的・計画的に航空写真・記念誌・式典・植樹等の90周年記念事業を推進する。5月に実行委員会を立ち上げ、地域やPTAと連携して行う周年記念事業にする。				・「やさしさ」と「しあわせ」があふれる桃五小をスローガンとし、4月に学校経営方針を載せた学校要覧を作成配布した。全校朝会等で、誰かを助けたり、役に立ったりすることを多く取り上げた。毎月の学校だより巻頭言で発信した。 ・周年のキャラクターや航空写真のデザインを児童から募集した。会場は体育館となったが、子供が司会をして、各学年が出し物をする等、全校児童参加し子供主体のセレモニーが実施できた。 ・学年合同授業、授業交換を積極的にに行った。特に、いじめや登校しぶりの対応について、チーム学年や学校全体で情報共有し対応した。 ・朝の時間を廃止、休み時間を30分間に延長し掃除は学級裁量とした。子供の主体的な行動を促すことができた。 ・ダウン症の書家金澤翔子さんによる揮毫「飛翔」の特別授業を実施した。寄贈された作品はPTAで額装し、90周年の記念として掲示した。PTAの協力でハルーンリリースを実施できた。			3.66	3.49	3.78	3.33	○年度初めの委員会紹介集会を見た時、児童が司会進行をしていて、とてもよかった。90周年記念セレモニーも同じように子供たちが主体の教育活動になっていた。「やってみたらこうなった」ではなく、子供たちが作り上げるという想定の下に、学校行事を実行できていた。  ▲生活しめ程が変わることについて、事前の説明がなかった。変わることには寛容でない人もいるので、説明の仕方を工夫して、替わることがよいことだと思えるようにすべきである。	
		○学務課、工事業者、PTAとの連携を図り、安全な工事と弁当対応ができるように準備する。 ○縦割り弁当給食など、弁当給食をプラスに生かす活動を行う。 ○地域とともに20年間も守り育ててきた校庭芝生が、環境教育や健康教育の中で生かされ、みんなの誇りとなるように各部会で検討する。 ○芝生管理の負担を軽減するために、ロボット芝刈り機を導入する。				・12月中旬に給食室改修工事が完了した。7月から毎週月曜日に営繕課、業者等と打ち合わせを行った。 ・芝生養生終わりに「はだしで遊ぶ」、養生明けに「芝生でお弁当」を実施し、教育活動に生かした。 ・日常的な芝生校庭の管理を副校長、地域、保護者、業者と実施し、過去最高の芝生が維持できた。学校だよりで「桃五の奇跡の芝生」について発信した。これまでの歴史をまとめた「芝生化20周年記念リーフレット」を発行した。 ・庶務課、学校整備課等と連携して7月に自動ロボット芝刈り機を導入し、維持管理負担が大幅に軽減した。			4.02	3.74	4	3.78	○校庭芝生の評価が「4」と、児童に定着してきた。「ポット苗づくり」も子供の態度がとてもよく、芝生の赤ちゃんを育てようと言って、大切にしている気持ちが伝わってきた。「転んでも怪我をしなかったんだよ。」と言っていた子供もいた。養生期間のデメリットもあるが、メリットも多い。  ▲ロボット芝刈りの導入はいいことだが、依然として芝生委員会の仕事の負担が大きい。	
心の育て	「青少年赤十字」活動を推進し、心の教育に努める。	○青少年赤十字加盟校として、「健康安全」「奉仕」「国際理解・親善」の分野で、「やさしさ」が発揮できるように、「あいさつ運動」「募金」「古本回収」「古物手回収」「クレンジアップ作戦」等に取り組む。 ○「しせい」「あいさつ」「あ」りがとう「わ」らい「せ」いとん を「桃五小しあわせの5つの習慣」として、学校全体で達成できるようにする。 ○各学級で起きているいじめを的確に認知し、情報の共有化を図り、いじめの早期発見、早期解決に向けた教育相談体制を強化する。(保護者との個人面談、児童との対話面談) ○昨年度全面改訂した「学校いじめ防止基本方針」の的確に運用する。「いじめの認知件数が多いのは、教職員の目が行き届いている証である」「担任一人で抱えることなく、組織的に対応する」				・4月に代表委員会が中心となって台湾地震義援金募金を実施した。ペットボトルキャップ回収に、掲示委員会を中心に取り組んでいる。8月の赤十字トレセンに児童4名が参加した。青少年赤十字ピブスを作成した。 ・「しせい」「あいさつ」「あ」りがとう「わ」らい「せ」いとん を「桃五小しあわせの5つの習慣」として、全教室に掲示した。 ・改訂した「学校いじめ防止基本方針」を4月保護者会で担任から説明した。また、6月ふれあい月間で「いじめ防止宣言」に全校で取り組んだ。学校だよりで「学校全体でいじめ問題に対峙する」として、保護者・地域に発信した。11月のふれあい月間では、教員研修を実施するとともに、認知件数135件に対応した。 ・いじめ防止対策委員会がいじめ認知からの流れと記録について確認し、早期対応・解消に努めた。			3.73	3.33	3.67	2.89	○心の教育に努めるために、7月に拡大運営協議会を開催し、教員、保護者、CS委員で、こども基本法について協議できたのはよかった。理念法なので、罰則がある訳ではないが、教員が人権について、自分事として捉えるきっかけになる。  ▲人権という用語は抽象的で分かりづらい。学校では何をすべきか、授業では何をすべきか、と具体的に論じていかないと、一番子供に影響力のある教員に伝わらない。	
		○1人1台のタブレットPCを有効活用し、ICT(1人1台タブレット、電子黒板、デジタル教科書、プロジェクター等)を活用した授業を推進する。家庭学習についても、タブレットを活用した宿題に取り組む。 ○「協働的な学び」を推進するにあたり、授業では対話を充実させ、話し合いの活動を活性化させるとともに、児童にとって深い学びとなるような展開を図る。 ○校内研究では、「学びに向かう力」を視点に、授業改善やカリキュラム・マネジメントに取り組む。 ○学びに向かう力が付くように、「放課後補習」「マイセレクト学習」に学校全体で取り組む。				・8月に児童用GIGAタブレットの入れ替えと電子黒板(BIGPAD)が各教室に整備された。校内研修を活用して、使用方法を周知するとともに、「個別最適化の学習」「協働的な学習」の手段となるように活用した。 ・校内研究のテーマを「学びに向かう力」の学びとし、6月に東京学芸大学附属竹早小学校から、現任教諭を講師として招聘した。2学期に各学年が取組と成果を発表し、各自が今後の教育活動に生かすようにした。 ・放課後補習は5月中旬からスタートし、1学期の金曜日8回、2学期に10回実施した。			3.96	3.55	3.81	3.56	○1人1台タブレットは、補習で活用すると成果を上げられるので、学びに向かう力の育成に効果的である。  ▲全国学力・学習状況調査の分析は、正答率だけではなく、正答者の分布が重要であり、格差が広がっていることが分かる。だからと言って、ただドリルをやればよい訳ではなく、苦手分野の授業をどう改善するかである。	
教育支援	だれ一人として取り残さない教育支援の理解と充実に努める。	○「全ての子どもたちを全教職員で支援する」という方針のもと、生活指導終会等で情報共有を行い、登校しぶりや不登校、問題行動には、教育支援コーディネーターを核に組織的に対応する。 ○特別支援教育の「構造化」の考え方を、授業や生活指導、教室環境に生かしていく。(①見通しをもたせる②見える化する③刺激を遮断する) ○特別支援教室(ももご教室)においては、巡回教員、特別支援教室専門員、スクールカウンセラー等と連携を図り、発達の特性に応じたきめ細やかな指導の充実を図る。 ○校内別室支援事業として、職員室(校務センター)内に校内別室(ももごラウンジ)をつくり、児童が多様な学びができる居場所とする。				・毎週金曜日の生活指導夕会で、学年ごとの情報共有を行った。毎月の職員会議で教育支援の時間を設けてきたが、2学期より夕会に統合し、よりタイムリーな情報共有とした。 ・5月に特別支援教室の意義と内容について、全校児童を対象に「ももご教室」巡回指導教員から講義を行った。「ももご教室」の利用者は12名である。2学期から新たに3名が利用した。 ・校内別室支援(ももごラウンジ)の運用については、教科学習とともに裁縫、読み聞かせ、英語等の多様な学びの場を用意し、現在10名近い児童が定期的および一時的に利用している。学校だより10月号の巻頭言で周知した。保護者には、個人面談等で積極的に周知した。			3.87	3.44	3.7	3.67	○母親の付き添いで登校していた児童が、1人で登校できるようになった。多様な背景を抱える子供たちのために、校内に居場所をつくる「ももごラウンジ」は、地域の方が英語教室や裁縫などを教えてくれて、成果が出ている。  ▲杉並区の不登校対策では、さざんか教室の他に、バーチャルラーニングプラットホームというオンラインのフリースクールも始まるようである。様々な方法を検討すべきである。	
		○中瀬中、八成小との小中連携では、特別支援教育の研修を行うとともに、教育支援についての情報共有を図る。 ○第6学年については、「学校見学」「部活動体験」「体験授業」等を計画的に実施する。 ○幼児小連携については、近隣幼稚園、保育園、子供園との「小学校体験等」の交流活動を積極的に実施する。 ○地域との連携行事には、積極的に参加し、地域との連携を図る。				・小中連携では、7月の合同研修会で八成小の授業を参観するとともに、教育観を磨くための講演会に参加した。9月に中瀬中学校で、「中学校生活についての対話型説明会」を4校合同(中瀬、八成、番掛、桃五)で実施した。 ・幼児小連携については、夏季休業中(7月)に近隣幼稚園、保育園の5園が3グループに分かれて「体験授業(国語、算数、体育)と施設見学を行った。スポーツDAY、ミュージックDAYに招待した。3学期には、希望制の学校見学会を予定している。 ・PTA盆踊り大会開催(7月)に伴い、灯籠づくりや盆踊り、出店等で地域との連携を図ることができた。 ・桃五小合唱団が地域の福祉施設で出張コンサートを5回実施し、青少年善行表彰を受けた。			3.21	3.28	3.52	3.33	○地域との連携行事で、突き立てのお餅を子供たちに食べさせることができた。餅つき大会は、井口会長の協力が必要であり、地域が桃五小を大切にしてきたという証である。  ▲校庭芝生化20周年は、ここまで紆余曲折を重ねながらも、大澤会長が長年携わって維持してきた。この奇跡の芝生の歴史を、もっと知ってもらいたい。	
体育健康教育	体力向上と心の健康づくりに取り組む。	○芝生の養生期間を意識した年間予定を見直すとともに、朝遊び、休み時間、放課後タイムを利用して、たくさん体を動かす機会を確保する。 ○運動能力テストや学校保健委員会等で、児童の運動や健康に関する課題を明らかにし、学校全体の健康づくりの取組を行う。 ○学校給食運営協議会を開催するとともに、残菜率に着目し給食指導および食育の充実を図る。				・休み時間を30分にして、運動の機会を確保できるようにした。朝遊び15分間は、支援本部の見守りのもと、毎日確保した。放課後遊びは、放課後等居場所事業に移管し、週2回(火・木)20分間実施している。 ・1学期にスポーツテスト(全学年全種目)を実施した。2学期には、その結果を分析し公表する。8月30日に定期健康診断をもとに、学校保健安全委員会を実施した。 ・区の食育リーダー研修会(6月)で、桃五の給食残菜率減少に向けた取組を発表した。			3.99	3.42	3.59	3.33	○地域に遊びの場がないことが、この地域の課題である。休み時間や放課後遊びで、子供が学校にいた時間帯に遊びの時間を確保できていることはよい。  ▲週3回の放課後遊びが2回になったのは残念である。減った分は、放課後補習を行っているのだが、学校が考える地域課題が違うのではないか。	
		○高学年への「あこがれ」、低学年への「やさしさ」をテーマに、委員会集会や縦割り班集会等の異学年活動を実施する。 ○委員会活動やクラブ活動、学校行事では、役割と責任を与え、責任をもってやり遂げる達成感や、人のために役立つ充実感を味わうことができるように事前・事後の指導を行う。 ○スポーツDAY・ミュージックDAY・アートDAYという新たな学校行事のあり方が、子供にも教員にも「やさしい」行事となるように各部会で内容を検討する。				・今年度の学校スローガンを代表委員会で話し合い、「皆の輝き90周年桃五小」(かっこいい・頑張れる・やさしく・協力し合える)とした。児童玄関に張り出し、パワースポットであることを伝えた。 ・1学期に6年生が中心となって、縦割り班遊びを2回、2学期に2回実施した。桃五タイムを活用することで、スムーズに運営できた。引き続き、子供が主体となった取組を心がける。 ・初めて1学期にスポーツDAYを実施した。情報冊子「なみすく」の取材を受け、改善の様子が紹介された。2学期にはミュージックDAYを実施し、保護者評価は4.7(5点満点)であった。3学期は、アートDAYを予定している。			3.83	3.68	3.93	3.56	○スポーツDAYは子供たちが一生懸命やっていて、多くの人に見せたいほどであった。ミュージックDAYも感動した。  ▲来校者の誘導には課題がある。車椅子の保護者への対応を検討しておく必要がある。	
開かれた学校運営	多くの大人の力を借りる「オール桃五」の学校創りを行う。	○PTAと連携し、保護者の理解や協力を得ながら、子供たちが安全で、充実した学校生活が送れるようにする。また、学校公開を毎学期1回実施し、アンケートをとって改善に生かす。 ○学校支援本部と連携し、通常の授業や土曜授業において、質の高い授業や安全に配慮された授業を提供したり、学習環境の整備をしたりする。 ○学校運営協議会と連携し、様々な課題や対応を報告するとともに、理解や協力を得る。また、学校関係者評価を実施する。 ○放課後等居場所事業(スマイル広場)の実施に当たり、各関係機関と積極的に連携する。				・PTAとの役員会、運営委員会に参加し、学校の状況を伝えて理解を得るとともに、要望等の意見を伺うことができた。学校公開・スポーツDAY・ミュージックDAY等の保護者アンケートをWEB上で実施した。 ・学校支援本部や芝生を育てる会の協力のもと、校庭全面の芝生を維持できている。また、不審者対応や安全管理のため、4月に学校安全支援隊を立ち上げ、児童の安全確保に努めた。 ・毎月、学校運営協議会を開催し、学校経営状況を説明し、協議を行うことができた。7月には、教員・CS・PTAで「子どもの人権」をテーマに、拡大協議会を開催した。 ・今年から夏休みに学校図書室をスマイル広場に開放し、子供の居場所を充実させた。			3.98	3.78	3.77	3.33	○水筒の異物混入の事件があった中で、地域と連携して、学校安全支援隊を組織したのは、よいことである。学校の外の危険だけではなく、不審者など学校の中の危険に対応できている。  ▲スマイル広場との連携は十分と言えるだろうか。スマイル広場は、児童が保険に加入する必要があるため登録制である。今までのように、誰でも自由に遊べている訳ではない。	
		○出退勤入力により、各自がタイムマネジメントを意識し、ひと月当たりの残業時間の上限を30時間以内になるよう努力する。 ○学校の常識にとらわれずに、業務のスリム化を図ることで、余裕をもって自分らしく働けるようにする。 ○教室、特別教室、職員室その他、整理・整頓・清潔・掃除の徹底を図り、業務の効率化を図る。 ○教育実習生や大妻女子大のインターンシップ等、教員を志す学生を積極的に受け入れるとともに、学び合い教え合いを通して、成長し続ける教職員を育成する。				・残業時間の平均は、4月35H、5月27H、6月29H、7月18H、9月24H、10月28H、11月24H、12月20Hで、目標を達成している。 ・4月の居住地確認をデータ上での確認とした。必要に応じて、実地で行うこととした。5月から学年だよりの紙での家庭配布を廃止し、学年だよりに統合してtetoru配信とした。 ・教員の勤務時間を8時から16時30分とした。また、生活しめ程を変更して、児童の下校時刻を14時50分とし、会議の時間を確保した。個人面談を7月と12月に実施することで、通知表を前期10月・後期3月の2回とした。 ・大妻女子大からのインターン(月1回程度)を受け入れ、スポーツテスト等で活用した。教育実習を5年生で1名実施した。10月に4年生で1名実施した。11月から東京教師養成塾生を1名受け入れた。						4	3.63	○学校行事の受付やゲストティーチャーの人選など、教員がやるのは難しいことを、地域が協力することができた。  ▲チーム担任制で担任が変わると、担任が学級を請け負うというのが、小学校の特性である。子供の心のよりどころがなくなってしまう。